



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：イラン・アフガニスタン・パキスタン関係（3ヶ国協議の開催）  
（4月12日付シヤーステ・ルーズ紙他）

4月10日、麻薬問題やテロ対策について話し合う、イラン・アフガニスタン・パキスタン次官級3ヶ国協議がイスラマバードで開催された。現地報道は以下の通り。

1. この会合において、3ヶ国政府高官は地域の平和と安定を脅かす主問題に関する相互理解促進を目的とした、3ヶ国首脳会談を来月テヘランで開催する事を確認した。
2. イラン側からはアーホンドザーデ・アジア大洋州担当外務次官が出席した他、アフガニスタンからはファラヒー（Mohammad Kebir Farahi）外務副大臣、パキスタンからはバシール（Salman Bashir）外務次官が出席した。
3. この会合の共同声明においては、3ヶ国がテロ、過激主義、麻薬及び組織犯罪との闘いに向けた強い姿勢を示すと共に、地域横断的な開発協力を促進する事が強調された。また、関係国が政治、経済、開発、復興及び社会的分野における協力の重要性について確認すると共に、この観点から（3ヶ国）協力の枠組み及び実践的な行動プランの策定に取りかかるとの決定がなされた。
4. アーホンドザーデ外務次官及びファラヒー外務副大臣は、会合終了後、クレーシ・パキスタン外相と会談を行った。この会談の中でクレーシ外相は、「今年3月に開催された ECO サミットの傍らで行われた3ヶ国首脳会議のプロセスは、今後も明確にフォローされていくものであり、テロ、過激主義、麻薬、人身売買および（3ヶ国の国境をまたぐ）組織犯罪は包括的な地域アプローチによってのみ対処する事が出来る」と述べた。